



# 議員行政視察報告

平成29年10月25日(水)～27日(金)に、議員11名により、北海道夕張市・NPO法人ゆうばり観光協会・下川町・東川町の行政視察を実施しましたので、その概要を報告します。

参加議員 大館秀孝・鈴木眞徳・齋藤 永・石内 浩・小澤啓司・飯田 一・中野 博  
南雲まさ子・井上栄一・田代 実・平野由里子

## 財政再建団体指定から10年後の夕張市

夕張市は「炭鉱の街」として栄えていたが、「石炭から石油」へと国の政策が転換され、炭鉱の閉山が続いた。炭鉱会社が所有していた病院や住宅・上下水道施設などを買い取り、「炭鉱閉山処理費用」は総額583億円に上ってしまった。

平成2年、地域経済再生を目指して「炭鉱から観光」へと設備投資を行ったが、バブル期の放漫経営による累積赤字や不正な財務会計処理が致命傷になり、平成18年、353億円の赤字を抱え、財政再建団体に指定されました。

市民負担は、市税や公共料金の増額、公共施設の廃止・縮小など市民生活に大きな影響が出始め、市民の失望感は大きく、現役世代の人口流出は止まらなく、市の存続が危惧されます。

### 財政再建団体指定

役員報酬は60～70%の削減、議員数・議員報酬も半減された。市の職員給与は30%カット、幹部職員の大部分など全職員の半数が退職していま

### 財政再生計画

平成28年、新たな財政再生計画が承認されました。

定住促進と子育て支援交流人口の創出、地域資源の活用、市民の負担軽減などであるが、これら



5市町の合同視察で質問する当町議員

### 現状認識

事業費の総額は100億円を超える規模でした。税金の落ち込みは厳しく、平成27年度決算では、市税収入は8億円、地方債残高は367億円もあり、「財政再生計画」が本当に実現できるのか、厳しい状況が続いています。国の政策転換もあり膨大な費用負担が発生し

## 観光協会理事が語る夕張市の現状と今後

ましたが、バブル経済進行中とはいえ、首長の経営判断が現在の状況を引き起こした事は間違いありません。

松田町も、住宅建設や学校建て替えなど大型事業が予定されています。町財政への影響が大きいので、チェック機能を働かせて行く必要があります。(記 小澤 啓司)

ゆうばり観光協会は、市の活性化と発展を願うNPO法人で、市や市の公的団体とは異なる立場での、破綻の経緯や現状・将来について、ゆうばり観光協会の理事の説明を聞きました。

夕張市には、NPO法人の観光協会と市営観光協会の2つの観光協会がありライバル関係にあります。

### 緯 夕張市の歴史的背景と経緯

石炭産地として炭産産業の発展とともに栄えてきましたが、市政の長期政権を握っていた市長は、炭鉱閉山により、「炭鉱から観光へ」と計画変更しました。炭鉱事業者や第三セクターがスキー場やホテル事業を進めましたが、結局市が買収し多額の負債を抱えることになりました。

その結果、住民サービスが低下し、さらに住民の転入・増加が見込めな



観光協会理事から説明を受ける

くなり、地方創生・地域活性化が難しくなりました。

### 夕張市の現状

人口減少に対し、交流人口を増やす政策で、夕張総合計画として「黄色いハンカチ観光事業」や「炭鉱メタンガス発電事業」、集落集約化のための「コンパクトシティ事業」を進めています。

農業は、夕張メロンがあるが、課題は後継者不足や他者の進出に対する農協の反応があります。リゾート事業は、現在中国資本が入っており、今後どうなるのか不明確のようです。

公共団体が財政破綻となる原因は、歴史的要素・長期政権・国の補助金政策等の方向性を見込